

富山県臨床研修病院合同説明会を開催します

富山県では、県内の臨床研修病院全てが集まる「富山県臨床研修病院合同説明会」を開催します。各病院のブースでは、指導医や研修医が皆さんをお待ちしていますので、自由に訪問して気になることは何でも質問してください。

また、説明会終了後には交流会を開催します。食事をしながら、富山県の先輩医師との交流を深めることができます。当日は、たくさんの研修医が参加する定ですので、「病院見学で見るところ」や「病院選びの基準」など重要情報を聞いてみましょう！

【日時】平成 24 年 3 月 17 日（土）16：00～20：45

【場所】ポルファートとやま

【対象】医学部 4 年生、5 年生の方

【費用】参加無料です。

県外大学の方には、旅費の一部を支給いたします。

【申込】申込用紙を郵送または電子メールでお申込みください。

詳細は、富山県ホームページ又は臨床研修情報サイト「e-resident」をご覧ください。

皆さまのご参加をお待ちしています！



昨年度の様子

富山県内の臨床研修病院

| 病 院 名 | 所 在 地 | 初期 研修 | 後期 研修 | T E L |
|---------------|-----------------|----------|----------|--------------|
| 黒部市民病院 | 黒部市 三日市 1108-1 | ○ | ○ | 0765-54-2211 |
| 富山県立中央病院 | 富山市 西長江 2-2-78 | ○ | ○ | 076-424-1531 |
| 富山市立富山市民病院 | 富山市 今泉北部町 2-1 | ○ | ○ | 076-422-1112 |
| 富山大学附属病院 | 富山市 杉谷 2630 | ○ | ○ | 076-434-2281 |
| 富山赤十字病院 | 富山市 牛島本町 2-1-58 | ○ | — | 076-433-2222 |
| 富山県済生会 富山病院 | 富山市 楠木 33-1 | ○ | ○ | 076-437-1111 |
| 高岡市民病院 | 高岡市 宝町 4-1 | ○ | ○ | 0766-23-0204 |
| 富山県済生会 高岡病院 | 高岡市 二塚 387-1 | ○ | — | 0766-21-0570 |
| 富山県厚生連 高岡病院 | 高岡市 永楽町 5-10 | ○ | ○ | 0766-21-3930 |
| 金沢医科大学 氷見市民病院 | 氷見市 鞍川 1130 | ○ | ○ | 0766-74-1900 |
| 市立砺波総合病院 | 砺波市 新富町 1-61 | ○ | — | 0763-32-3320 |
| 南砺市民病院 | 南砺市 井波 938 | ○ | ○ | 0763-82-1475 |

富山県立中央病院に小児外科が開設されます

富山県立中央病院では、今年4月に、外科手術を必要とする赤ちゃんに専門医が対応する「小児外科」を新設します。富山県立中央病院は、昨年3月に母体・胎児集中治療管理室（MFIU）を9床から12床に増床したほか、昨年11月には新生児集中治療管理室（NICU）を23床から29床に増床し、周産期医療体制を強化してきました。

そして、今年4月からは、ヘルニアや虫垂炎などの外科手術が必要な小児の治療を行う「小児外科」を開設します。今年5月には、小児外科手術もできる産科手術室を2部屋整備する予定です。

小児科、産科に興味をお持ちの方は、ぜひ一度見学されてはいかがでしょうか。

また、学生の皆さんにうれしい情報があります！

富山県立中央病院では、現在新しく研修医宿舎を建設中です。

今年の春に完成・使用開始される予定ですので、見学の際はぜひ立ち寄ってみてください。

<最近の富山県立中央病院の動き（周産期）>

- 2011年 3月 新東病棟完成
MFIUを12床に増床
- 2011年 11月 NICUを29床に増床
- 2012年 4月 「小児外科」を開設



富山県の周産期医療連携体制

重症度に応じて、各医療機関が妊産婦や新生児の受入を行っています。総合周産期母子医療センターでは、常時の妊婦及び新生児の搬送受入体制を有し、合併症妊娠や切迫流産、胎児異常リスクの高い妊娠や新生児を受入れています。

周産期第3次救急医療は富山県立中央病院と富山大学附属病院が担っているよ。



総合周産期母子医療センター

→高リスクの妊娠に対する医療、高度な新生児医療等

富山県立中央病院
NICU29床

地域周産期母子医療センター

→比較的高度な産科医療・新生児医療

| 新川 | 富山 | 高岡 | 砺波 |
|------------------|-----------------------------------|-------------------|--------------------|
| 黒部市民病院 NICU3床 | 富山大学附属病院 NICU22床 富山市立富山市民病院 | 厚生連高岡病院 NICU9床 | 市立砺波総合病院 NICU3床 |

周産期母子医療センター連携病院

→中等症妊産婦に対する医療

富山赤十字病院、済生会高岡病院

地域産科医療機関及び助産所

→主に正常妊娠・分娩を担当





育児を経験した医師からのメッセージ



氏名 稲坂 淳 高岡市民病院 産婦人科部長
出身大学 東邦大学
趣味等 ジョギング

私は、現在、高岡市民病院の産婦人科医であり、3人の子供を持つ40歳の父親です。(産婦人科としては6年目)

ワークライフバランス的に言うと、医師になりたてのころは(少なくとも最初の3年間)毎日毎日、仕事にのみ時間を使っていたように思います。

そんな私も30歳で結婚し子供ができたものの、当時は腎臓外科に所属し、週に2回程度しか家に帰らない時期もありました。

子供が3歳になりおしゃべりが出来るようになってくると、子育てをなんにもしていないじゃないか、これではまずいと思いました。実家のある北陸へ帰ることにした理由のひとつです。その後、産婦人科に転科して、現在の高岡市民病院に至るわけです。東京江戸川で長男が生まれ、黒部市民病院で長女が生まれ、呉羽の自宅で次男が生まれ(自宅出産)、現在はとても幸せに暮らしています。

産婦人科は他科に比べて女医さんの割合が多く、いろいろな女性のライフスタイルに対する理解度はとても高いように感じます。産婦人科ですから、女性が主役でいいと思います。男性は縁の下の力持ち的存在で、いざという時に必要とされるよう日々の気遣いと努力が必要と感じています。

また、子供を持ってそこから成長して仕事や家庭に還元することがとても大切だと思います。子育ては、我慢と忍耐が重要です。言うことを聞かない子供を前に、怒らずにいるのは難しいものです。子供に叱るよりも、たくさん愛情をかけることの方が重要で、その方が意外と言うことを聞くようになるということも、最近になりようやくわかってきました。(常に出来るかどうかはべつですが・・・)

このようなことが分かると仕事の時の対人関係にも生かせる日が来るかもしれません。仕事だけでは成長できない部分を、家庭で成長させてもらっている部分は多々あり、感謝している今日この頃です。

❖ 研修医のサポート体制 ❖

氏名 藪下 和久 高岡市民病院 外科主任部長
臨床研修管理委員会プログラム責任者



本院には、常時4~6名の研修医が在籍しています。研修医室には仮眠ベッドも完備しており、昨年は、女性専用仮眠室をより快適に過ごせるように改修し、女性医師に大変好評です。研修医室の隣の図書室は24時間開放しており、医学中央雑誌やメディカルオンライン、Up to dateによる文献検索も可能であり、また、研修医には病院からiPadを貸与し、日々の勉強に役立ててもらっています。

研修医宿舎は、近隣のマンション等と病院が契約し、低家賃にて入居していただいています。





育児中の医師からのメッセージ



氏名： 朴木 久恵
富山県済生会高岡病院 内科医長
出身大学： 東京女子医科大学(H13年卒)
趣味等： 裁縫(直線縫いのみ?)

私の母も、友達のお母さんも、私の姉も、一緒に働く看護師さんも私の周りには、子育てをしながら仕事をしている女性がたくさんいました。そういう点では育児のために仕事を辞めるといった選択肢はありませんでした。私は「親がいなくても(います。)子は育つ」いつのころからかそう思っていました。「それは間違い。」と最初に教えてくれたのは、今働いている済生会高岡病院の内科部長でした。その事は今いる3人の子供達(8歳、6歳、2歳)が毎日教えてくれます。

いままで、急性期病院、一般病院、大学病院、妊娠出産、子供の成長などに合わせて、その時にできる仕事を続けてきました。(済生会高岡病院は3回目の勤務です。)幸い私は実親と同敷地に暮らしており、また、周りの方々の支援もあり何とか現在のような急性期病院でも仕事を続けることができています。

私が医師として働くことができるのも、私の事を支えて下さる上司の先生方、先を進む先輩女性医師、看護師、ママ友、家族のおかげです。私は育児等に関する制度について充分理解しておりませんが、今の勤務では土日に子供の行事が重なることが多いため、土日の当直を免除していただき平日のみ当直をしております。また小学校、幼稚園の行事もフルに有給休暇等を利用し、他の先生にお願いしながら出席するようにしています。仕事をやりたくてもできない子供をもつ女性医師が多い中、このような形で急性期病院の勤務を続けられることにとても感謝しております。

好きな仕事をして、かわいい子供達と過ごして、あまりそれ以上考えられない位忙しい毎日ですが、出来ることをコツコツと少しずつでも前に進んでいきたいと思えます。

※当院では急性期から地域医療まで、日々様々な臨床を経験し学ぶことができます。医局員同士も仲良く楽しく仕事が出来ます。是非、皆さん一緒に働きましょう。

❖ 研修医のサポート体制 ❖

氏名 荒木 博和 富山県済生会高岡病院 経営管理グループ 課長補佐

・研修医室の様子



当院の研修医室は非常に眺めの良い最上階の8階にあります。研修医室の窓から見える景色は高岡市のシンボルニ上山をはじめ、大型ショッピングモール、新幹線着工予定新高岡駅等、高岡市が一望にのぞめます。特に夜景は高岡市内のイルミネーションが眩く光り最高のシチュエーションです。研修医室にはインターネット環境はもちろんのこと、ソファー、仮眠ベッド、冷蔵庫、電子レンジ、テレビ等を備え、部屋にない物といえばシャワー室ぐらいです。また、研修医室の隣が職員専用の図書室、斜め向いが食堂と研修医にはとても満足できる環境となっています。

また、遅くとも平成26年度までに開通が予定される北陸新幹線の新高岡駅付近が眼下にあります。当院の周辺が急激に変化しているのが手に取るように分かります。是非皆さんもこの臨床研修医室で発展する高岡の目撃者になってはどうでしょうか。





育児中の医師からのメッセージ



氏名 尾山 佳永子
所属 外科医長(外科専門医、乳腺専門医)
出身大学 金沢大学 98年卒

現在、3歳と1歳の子供の母親をしながら、外科医として主に乳腺をメインに仕事をしています。産後は安定していたので、8週間の産休で現場復帰しました。

長女は夫(非医師)が育児休暇を取得し10ヶ月まで育児に専念してくれました。その後は保育園に元気に通園しています。

次女は生後8週から長女と同じ保育園へ通っています。病院で仕事の合間に搾乳したり、1時間の授乳有給を利用して保育園に授乳にいったりしながら、母乳で育ちました。

小さいうちはすぐに熱を出したり、肺炎になったり、中耳炎になったりといろいろあります。保育園へ迎えにゆき、そのまま近所の私の両親に預け仕事に戻るという綱渡りもありますが、とにかく助かるのは職場、上司や同僚の理解です。当直や急患はまだ無理な状況で大変負担をかけているにもかかわらず、快く子育てを見守ってくれています。おかげで責任のある仕事も今までどおり全力で行えます。私たちの上の世代が女性医師の存在を確立してくれました。

私たちの世代は子育てと仕事の両立が無理なく出来る職場や社会を作っていけたらいいな、と思いつながら微力ですが、がんばっています。

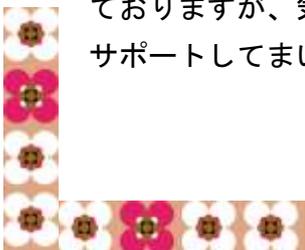
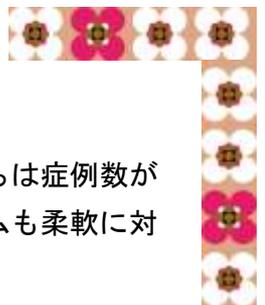
❖ 研修医のサポート体制 ❖

当院は、第3次救命センターを有する富山県西部地区の基幹病院であり、研修医からは症例数が多く、指導医も充実していることで評価が高まってきています。また、研修プログラムも柔軟に対応しており、たすきがけ研修医も多くなっております。

当院の福利厚生面の特徴としては、

- ①リフレッシュ休暇制度(平日連続3日間休み)
- ②時間外手当、当直手当の支給
- ③医師官舎はありませんが、住宅家賃補助(35,000円/月)と契約時の諸費用(敷金、礼金等)は病院が負担など

現在、当院は病棟増改築工事中であり、研修医室が手狭など研修医の皆さんにはご不自由をお掛けしておりますが、気持ち良く研修ができるよう全力でサポートしてまいります。





育児中の医師からのメッセージ



氏 名 小池 理恵
診 療 科 総合診療科
出身大学 自治医科大学(H14年卒)



自治医科大学義務年限中に、妊娠・出産を経て1年ずつ育児休業を取得し、子供たちも現在4歳と2歳になりました。2人目育休明けの現在は、金沢医科大学氷見市民病院で勤務しています。日中は、病棟・外来・救急当番の仕事があり、また救急当直や土曜救急日直といった時間外業務もあるため忙しい毎日ですが、周囲のサポートに恵まれ、幸いにも仕事を続けることができます。

当院内科は医師数が比較的多く、時間外急変時の当番医対応が可能であること。また、子育て中であることへの気遣い・理解もあり大変助かっています。

夫も同業(大学病院勤務)であり二人とも子供と接する時間は限られていますが、仕事のストレスは持ち帰らないよう、一緒に遊ぶ時は気持ちを切り替えて思いっきり遊ぶよう心掛けています。両立は時々しんどいなあ・・・と感じることや困難も多々ありますが、仕事・子育てを通じそれぞれ新たな出会いや世界が広がり、よい息抜きになっています。

周囲への感謝を忘れず、ハプニングをも楽しむ余裕を持ち、いい意味でマイペースが今後の目標です。

❖ 研修医のサポート体制 ❖

平成23年9月1日に金沢医科大学氷見市民病院の新病院がオープンしました。

氷見市は高齢化率が30%を超えており、富山県内でも高齢化が進んでいる地域です。そのため、リハビリや在宅医療など様々な医療ニーズがあり、金沢医科大学氷見市民病院は、氷見市で唯一の公的病院として地域の医療を担っています。

新病院には、「回復期リハビリテーション病棟」や検診・ドックなどの予防医療を推進する「健康管理センター」などが設置されているほか、救急外来やICU・手術室・血液浄化センター等も拡充されています。

また、医師の勤務環境にも配慮されており、研修医にはデスクを含む個別スペースがあります。

富山県西部での臨床研修をお考えの方は、ぜひ一度見学に来てください！



育児中の医師からのメッセージ



氏名 中波 暁
市立砺波総合病院 リハビリテーション科
出身大学 金沢大学(平成13年卒)



私は平成13年5月に金沢大学整形外科に入局し、富山県立中央病院、市立砺波総合病院、氷見市民病院(現・金沢医科大学氷見市民病院)を整形外科医としてローテートし、平成23年4月から市立砺波総合病院リハビリテーション科に勤務しています。長男出産時に7ヶ月、長女出産時に9ヶ月、次男出産時は14ヶ月の休暇を取得しました(いずれも金沢医科大学氷見市民病院)。休暇中の外来は金沢大学から代診の先生に診て頂きました。長期休暇を取る時は直属の上司や医局の理解・協力が必要です。

また、育児をしながら常勤で勤務するには、並外れた気力体力と家事の分担が不可欠と思います。整形外科常勤の時は、手術で遅くなる日や子供が休む日は子守の為に母を呼びました。私は家事が苦手で、子供が3人になると毎日の家事育児が家にいる時間でこなせなくなったのでしばらく仕事の時間を減らすことにしました。他の選択肢は家政婦を雇うとか、親と同居して家事を頼むとかでしょうか。

現在は長男長女を公立保育所に次男を院内保育所に預けながら、育児短時間勤務制度を利用し週3日で勤務しています。この制度の対象は小学校就学前までの子を養育する常勤職員で、常勤の身分のまま短時間の勤務が可能です。当院は女性医師も多く、男性も子供が4人いる先生や子育て中の先生がいて理解もあり、育児中の当直免除も医局会則に明文化され、勤務しやすい雰囲気があります。

❀ 研修医のサポート体制 ❀



氏名 雄川 孝治 市立砺波総合病院 臨床研修科 職名:主任

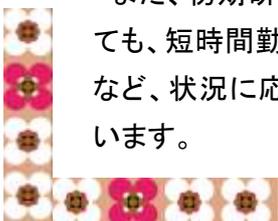
当院での研修医サポート体制をご紹介します。

当院では、研修医専用の自習室を準備し、電子カルテ端末2台、インターネット端末1台、テレビ、冷蔵庫、電子レンジを備え付けております。もちろんエアコンも完備しております。

また、専任司書のいる図書室も開設しておりますので、学習環境は高水準であると自負しております。

女性の方も安心して育児できるよう、院内保育所を併設しており、たくさんの職員が院内保育所を利用して仕事と育児を両立しておられます。

また、初期研修期間中に育児期間が重なった場合においても、短時間勤務体制、当直等の研修スケジュールの調整など、状況に応じて十分な研修を実施できる体制を整えています。





育児中の医師からのメッセージ



氏名 井窪 万里子
南砺市民病院 14年目内科医師
出身大学 富山大学(第一内科所属)
安らぐこと 運転中の音楽、家族の団欒、子供の寝顔

県内西部出身、南砺市民病院には10年近く断続的に勤務しています。現在2子の母で第3子妊娠中です。薬剤師の夫、夫の両親と同居。小学生の上の子の帰宅後は義父母が、下の子は病院内保育園でみてもらい18時にいっしょに帰宅を目指し仕事をしています。

医師に限らずどの職業であっても、女性が仕事と育児を両立するには充実感もあり苦悩もあると思います。女性勤務医として難しさを感じる場所は、①入院患者さんの急変時。最近は主治医グループ制度や緊急時の当直医対応、担当の割り振りの配慮などで、夜間や休日の負担が随分減ったと感じます。②子供の急病や行事のやりくり。同僚の先生に急ぎょ代行をお願いしたり、3ヶ月前から外来を休診にしたりしています。③子供と過ごす時間が限られること。帰ると寝ていることもしばしば。その分、一緒に過ごす毎朝や休日は、めいっぱい子供と向き合うようにしています。子供といるときは病院のことは考えず、可能な限り医学書や文献も家庭には持ち込まないようにしています。時間が限られるのは仕事も同じで日進月歩の医学についていくには焦りを感じることも正直あります。

100%理想的な両立は困難、ストレスをためないためにはほどよく妥協していくことも大切だと思っています。私の場合は家族、南砺市民病院や大学医局の支援制度、何より共に働く南砺市民病院の医師・スタッフの理解と協力があるからこそ現在の生活が成り立っています。医師と育児の両立にはいろいろな方向があると思いますが、10年前と比べても女性医師も増え、環境も変わってきていると感じます。いろんな先輩医師を参考にしながら10年先の自分を想像して多くの女性に両立を目指してもらいたいです。



❀ 研修医のサポート体制 ❀



氏名 荒幡 昌久 南砺市民病院 内科・総合診療科医長(研修責任者)

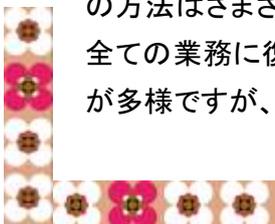
当院では、女性医師に優しい病院を目指して育児支援を積極的に行っています。

- ①産前産後の当直免除、②病棟を受け持たず、外来や健診、検査等の業務を行う、③院内保育所の設置

などがその例です。個々の家庭事情や希望に合わせて職場復帰の方法はさまざま。ゆっくり外来業務からという場合や、いきなり全ての業務に復帰することも可能です。当院の医師は出身大学が多様ですが、周囲の理解や協力体制は充実しています。



院内保育所 「カルガモ広場」 →→→



富山県医師会主催の講演会について



「第3回富山県医師会と医学生が語る会」が開催されました

平成24年1月15日(日)に、ANAクラウンプラザホテルで「第3回富山県医師会と医学生が語る会」が開催されました。

「キャリアデザインを考えよう!」というテーマで、富山大学の学生さんや県内病院の初期臨床研修医など約70名の参加者が、ワークライフバランスについて考えました。

午前中は、育児と仕事を両立されている先輩医師からの講演があり、子育てしながら働くために努力されていることや、利用している制度などを紹介されました。

午後からは、学生さんと研修医によるグループワークを行いました。用意されたシナリオごとにグループで解決策を話し合い、自分のキャリア形成に活かすという内容です。実際に使用されたシナリオの一つをご紹介します。

《女性シナリオ》

お母さんの職業は内科医。子育てに関して近くに両親など協力してくれる人がいない。産休期間終了後、育児休暇をとるか悩んでいる。

《男性シナリオ》

夫は外科医である。病院では職員に非常に信頼され、救急やターミナルケアも担当している。夫は妻に専業主婦を望んでいる。



皆さん、自分だったらどうしますか?

参加者の皆さんは、熱心に話し合い、グループごとに様々な解決策を発表されていました。医師としてキャリアを積む中で、結婚・出産などのタイミングは非常に重要です。皆さんも、将来のキャリアプランを考えてみてくださいね。

「第7回講演会—live a full life—」が開催されます

平成24年3月4日(日)には、「第7回講演会—live a full life—充実した人生を生きる」が開催されます。

「私にとっての会社・仕事・家族」と題して、(株)東レ経営研究所の佐々木常夫氏が講演されます。佐々木氏は、医師ではありませんが、仕事が多忙を極める中で、3人の子供の子育てをしながら妻の入院生活を支えるという生活を送ってこられました。

また、佐々木氏は「働く君に贈る25の言葉」などのビジネス書を多数執筆されており、効率的に仕事をするコツを良くご存じです。

講演の中には、仕事と家庭の両立について、皆さんのヒントになることがたくさんあるはずですよ!

参加をご希望の方は、富山県医師会にお申込みください。詳細は、富山県医師会ホームページをご覧ください。

第7回 講演会
live a full life
~充実した人生を生きる~

2012年
3月4日(日)
午後1時30分~3時まで

会場 富山第一ホテル 3階 天平の間

講演 「私にとっての会社・仕事・家族」
東レ経営研究所 特別講師 佐々木 常夫 氏

入場無料

講演者 佐々木 常夫 氏
東レ経営研究所 特別講師
「働く君に贈る25の言葉」の著者
「私にとっての会社・仕事・家族」の著者
「会社・仕事・家族」の著者
「会社・仕事・家族」の著者
「会社・仕事・家族」の著者

講演内容
「私にとっての会社・仕事・家族」と題して、(株)東レ経営研究所の佐々木常夫氏が講演されます。佐々木氏は、医師ではありませんが、仕事が多忙を極める中で、3人の子供の子育てをしながら妻の入院生活を支えるという生活を送ってこられました。また、佐々木氏は「働く君に贈る25の言葉」などのビジネス書を多数執筆されており、効率的に仕事をするコツを良くご存じです。講演の中には、仕事と家庭の両立について、皆さんのヒントになることがたくさんあるはずですよ!

講演者 佐々木 常夫 氏
東レ経営研究所 特別講師
「働く君に贈る25の言葉」の著者
「私にとっての会社・仕事・家族」の著者
「会社・仕事・家族」の著者
「会社・仕事・家族」の著者
「会社・仕事・家族」の著者

講演内容
「私にとっての会社・仕事・家族」と題して、(株)東レ経営研究所の佐々木常夫氏が講演されます。佐々木氏は、医師ではありませんが、仕事が多忙を極める中で、3人の子供の子育てをしながら妻の入院生活を支えるという生活を送ってこられました。また、佐々木氏は「働く君に贈る25の言葉」などのビジネス書を多数執筆されており、効率的に仕事をするコツを良くご存じです。講演の中には、仕事と家庭の両立について、皆さんのヒントになることがたくさんあるはずですよ!

病院見学・受験の旅費を補助しています

富山県では、県内の臨床研修病院に病院見学・採用試験受験に来られる医学生の方に旅費の一部を支給しています。春休みなどを利用して、ぜひ病院見学にお越しください！

【対象】 県外大学に在籍する医学生（4～6年生）

【支給条件】 富山県内の臨床研修病院を2か所以上見学又は受験すること
（1人につき、2回まで申請できます）



皆さんのお越しをお待ちしています！



【支給額】

| 大学所在地 | 支給額 |
|---------------|-----|
| 石川県 | 5千円 |
| 福井、新潟、岐阜、長野県 | 1万円 |
| 関東、近畿、その他中部地方 | 2万円 |
| その他地域 | 3万円 |

- 【手続き】①富山県のホームページから「証明書」をダウンロード
②「証明書」を持って、病院見学・受験を行う
③病院担当者から「証明書」に必要事項を記載してもらう
④必要書類を富山県臨床研修病院連絡協議会に郵送

◆詳細は、富山県ホームページをご覧ください◆



メールマガジンの配信

医学生の皆さんに「富山県医学生だより」というメールマガジンをお送りしています！

富山県が主催するイベントはもちろん、富山大学附属病院からのお知らせや県内病院の最新情報なども配信中です。

最新情報をお届けしていますので、未登録の方は、ぜひご登録ください！！

ご希望の方は下記までご連絡ください。

doctor-t@esp.pref.toyama.lg.jp

e-residentへの掲載



臨床研修医情報サイト「e-resident」に富山県のページを掲載しています！

知事からのメッセージや富山県が主催する最新イベントのご案内、各臨床研修病院の照会など、皆さんのお役に立つ情報をたくさん載せています。

病院長や研修医のインタビューを掲載しました！ぜひ、ご覧ください！